

3年生総合的な学習の時間 特設授業「SDGs 持続可能な重井のために」

- 1 期日 令和4年2月28日(月)
- 2 時間 5, 6校時 13時40分~15時30分
- 3 指導者 大畠 一洋 教諭
- 4 講師等 村上 美香 様(重井町出身のコピーライター・作家)
酒井 裕次 様(大浜と横浜にオフィスを構えるPLUS inc 経営者)
丸山 邦夫 様(東京から移住したシーカヤックインストラクター)
小森 健治 様(尾道市重井公民館館長)
上別府隆男 様(福山市立大学 都市経営学部教授)

5 学習指導の流れ

★4グループを作り、グループごとにタブレットを準備する。

★自分の就きたい職業をホワイトボードの上部に書く。【授業終了まで消さない】

- (1) 5年後の自分が、「どこ」で「何」をしているか想像して、ホワイトボードに書こう
→ 班の中で発表 → タブレットに向ける
- (2) 10年後の自分が、「どこ」で「何」をしているか想像して、ホワイトボードに書こう
→ 班の中で発表 → タブレットに向ける
- (3) 20年後の自分が、「どこ」で「何」をしているか想像して、ホワイトボードに書こう
→ 班の中で発表 → タブレットに向ける 【ここまで約10分】
- (4) 生徒の作文を紹介する。

公民館から学んだことが二つあります。(中略) 2つ目は「地域の宝」です。地域には、村四国・島四国・一本松・村上水軍にゆかりのある場所などたくさんあります。しかし、小学校の頃はそれらに興味なく、逆になんであるのか、と想い、邪魔だなんて思っていました。しかし、これも公民館で学ぶことによって、考えが一転。地域の素晴らしさに気づき、誇れるようになりました。村四国を見ると地域の宝に気づかせてくれてありがとう、と思うようになり、より因島重井町という町を誇りに思えるようになりました。

でも、いつか大人になると、東京や大阪など都市へ出て就職して働く、という流れに誰でもなり、故郷の田舎へ帰って永住、ということは少ないと思います。でも、僕は都市へ出て、必ず故郷の因島に帰り、そこで一生を過ごしたいと思います。僕は田舎から都市へ進出、で終わるのではなくて、その後に帰省して住み慣れた故郷で暮らす、ということ世に広めたいです。

子どもには、このまま公民館という場で地域についていろいろ学び、発見をしてほしいと思っています。公民館での学ぶ機会を頂き、本当にありがとうございました。

- (5) 作文を読んだ感想を発表させる。
 - (6) 作文の生徒は「重井」に帰ってきて、どうやって生活(職業)するのかを考える。
→ 発表 → 協議 【ここまで約8分】
 - (7) 大阪で活躍されている村上 美香 様から郷土「重井」に対する思いを聞く。 【8分程度】
 - (8) 大浜と横浜にオフィスを構える酒井 裕次 様から横浜と大浜の両方にオフィスを構える意味と仕事の進め方についてのお話を聞く。 【8分程度】
 - (9) 東京から因島へ移住してこられた丸山 邦夫 様から人生の選択についてのお話と故郷と東京に対する思いについてのお話を聞く。 【8分程度】
 - (10) 村上 様、酒井 様、丸山 様のお話について質問をする。 【8分】
— — — — — 休 憩 — — — — —
 - (11) 重井公民館長 小森 健治 様から重井に対する思いを聞く。 【10分程度】
 - (12) 各自で「しげい帖」を読む。 【5分程度】
- ★新しいホワイトボードを班へ配る
- (13) 郷土「重井」を持続可能な地域社会とするために、自分たちはどうしたらよいかを考える。 個人思考 → 小グループ思考 → 集団思考 【15分~20分】
 - (14) 上別府 隆男 教授から助言をいただく。 【10分程度】
 - (15) 各自で本時に学んだことや感想を書く。(ふりかえり)
 - (16) 教師が代表的な感想を読む。(まとめ)

※授業の冒頭で、将来就きたい職業をホワイトボードに書かせ、希望の実現のためには重井を離れなくてはならないことを、意識させる。就きたい職業は授業終了まで消さない。